

次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘

「Tokyo Midtown Award 2012」結果発表

受賞作品はプラザ B1F メトロアベニュー展示スペースにて展示

10 月 26 日(金)～11 月 25 日(日)

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、“「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”をコンセプトに街づくりを進めています。その活動の一環として開催中の「Tokyo Midtown Award 2012」において、この度、計 1,318 点の応募作品の中から、グランプリ 2 作品を含む受賞作品 14 作品が決定しました。

＜Tokyo Midtown Award 2012 グランプリ受賞作品＞

アートコンペ
テーマ:「都市」



作品名 : 『「中に入れてくれ」と屋外は言った。』
受賞者 : 太田 遼(おおた はるか)

デザインコンペ
テーマ:「安心」



作品名 : 『おまもりカイロ』
受賞者 : 市田 啓幸(いちだ たかゆき)

今年で 5 回目となる本アワードは、＜アートコンペ＞＜デザインコンペ＞の 2 部門で実施。2 部門総計 1,318 点の応募作品の中から、アートコンペではインスタレーション作品『「中に入れてくれ」と屋外は言った。』、デザインコンペでは不安な心をあたためそうな『おまもりカイロ』がグランプリに選出されました。

入賞作品 14 点は、10 月 26 日(金)から 11 月 25 日(日)までの約 1 ヶ月、東京ミッドタウンのプラザ B1F メトロアベニューにて展示されます。また、11 月 4 日(日)まで、来街者の一般投票で人気作品を選出する「オーディエンス賞」も実施。結果は 11 月 5 日(月)に東京ミッドタウン・オフィシャルサイトにて発表いたします。なお、東京ミッドタウンでは 10 月 26 日(金)から 11 月 4 日(日)まで秋のデザインイベント「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2012」を開催しておりますので、併せてお楽しみください。

■掲載時の一般の方のお問い合わせ先■ 東京ミッドタウン・コールセンター TEL : 03-3475-3100

アートコンペ テーマ:「都市」

アートコンペの今年のテーマは、「都市」。多くの人が様々な目的で行き交う東京ミッドタウン内プラザ B1F「メトロアベニュー」を舞台に、東京ミッドタウンにふさわしい「都市のアート」を募集し、241 点の応募がありました。今年の実選作品には、インスタレーション・立体分野の応募が多く見られました。

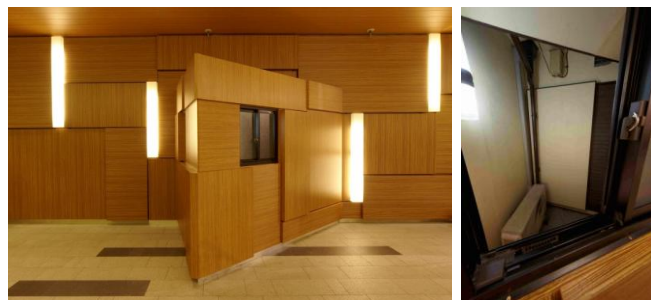
その応募作品から 6 点の実選作品を選出。実選者には制作補助金 100 万円が支給され、10 月 6 日(土)より作品の公開制作を実施。10 月 15 日(月)の最終審査を経て、各賞が決定しました。

グランプリ

作品名:『「中に入れてくれ」と屋外は言った。』

受賞者:太田 遼(おた はるか)

略 歴:2010 年 武蔵野美術大学大学院 修了



<作家コメント>

屋外は思いました。自分だって中に入りたいたい。

そこで、思い切って中に入ってみました。

やっとのことで中に入った、その様子を見た通りがかりの人が言いました。

「こんなところに屋外がある」

屋外はやっぱり屋外なのでした。

【アートコンペ概要】

テ ィ マ : 「都市」

応募期間 : 2012 年 5 月 17 日(木)~2012 年 6 月 7 日(木)

審査方法 : 1 次審査(書類審査)→2 次審査(模型によるプレゼンテーション)→最終審査

審査員 : 児島やよい(フリーランス・キュレーター/ライター)

清水敏男(東京ミッドタウン・アートワークディレクター/学習院女子大学教授)

土屋公雄(彫刻家/愛知県立芸術大学大学院教授)

中山ダイスケ(アーティスト/東北芸術工科大学教授)

八谷和彦(メディア・アーティスト/東京藝術大学准教授)

協 力 : TOSHIO SHIMIZU ART OFFICE

賞 : グランプリ(1 点) _____ ¥1,000,000

準グランプリ(1 点) _____ ¥500,000

実選(4 点)

※別途入賞者 1 人、または 1 組につき、制作補助金 100 万円を支給

準グランプリ、優秀賞、実選の作品については、添付参考資料をご参照ください。

デザインコンペテーマ：「安心」

今年の「デザインコンペ」は、「安心」をテーマに募集し、1,077 点の応募がありました。テーマが「安心」ということで、防犯・防災を意識した作品が数多く見られました。“デザイン力”、“提案(プレゼンテーション)力”、“テーマの理解力”、“消費者ニーズの理解力”、“商品化の可能性”を基準に応募シート(プレゼンテーションシート)を審査後、意匠権調査を経て、グランプリ・準グランプリ・優秀賞(各1点)、審査員特別賞(5点)の計8作品が決定しました。グランプリ受賞者は、香港デザインセンターが主催するアジア最大の総合デザインイベント「Business of Design Week(BODW)」に招待されます。また受賞作品には、今後継続的に商品化のサポートを行っていく予定です。

グランプリ

作品名：おまもりカイロ
受賞者：市田 啓幸(いちだ たかゆき)
略 歴：武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科 在学



<作家コメント>

受験シーズンの学生に贈る、携帯用カイロ。試験当日は緊張で胸がいっぱい。冬の寒さとも勝負しなければいけません。そんな受験生の不安をちょっとやわらげるアイテムです。努力を積み重ねて来た人なら、少しでも気持ちを落ち着かせる事が出来るかも。

【デザインコンペ概要】

テ ー マ : 「安心」
応募期間 : 2012年7月5日(木)~8月2日(木)
審査方法 : 書類審査
審 査 員 : 小山薫堂(放送作家/東北芸術工科大学教授)
佐藤 卓(グラフィックデザイナー)
柴田文江(インダストリアルデザイナー)
原 研哉(グラフィックデザイナー/武蔵野美術大学教授)
水野 学(アートディレクター)
協 力 : 東京ミッドタウン・デザインハブ
後 援 : Hong Kong Design Centre
賞 : グランプリ(1点) _____ ¥1,000,000
準グランプリ(1点) _____ ¥500,000
優秀賞(1点) _____ ¥300,000
審査員特別賞(5点) _____ ¥50,000
※受賞後、商品化のサポートを提供

準グランプリ、優秀賞、審査員特別賞の作品については、添付参考資料をご参照ください。

※1 デザインコンペ後援機関：Hong Kong Design Centre(HKDC)について

香港デザインセンター(HKDC)とは、香港特別行政区政府、香港ジョッキー・クラブの全面的な支援を受け、2001年に香港で発足した独立非営利団体。「デザイン」と「イノベーション」を通して社会的幸福を促進することを使命とし、香港をアジアの優れたデザイン拠点として確立することを目的としています。

※2 デザインコンペグランプリ受賞者ご招待、海外デザインイベント視察先：Business of Design Week(BODW)について

香港デザインセンターが主催するアジア最大の総合デザインイベント。社会やビジネスにおいてデザインが重要になるという考えに基づき、革新的で優れたデザインを振興するとともに、デザイナー達に活力を与える場を提供しています。アジア市場でデザインによって商業的成功をおさめた企業に対して授与される「アジアデザイン賞(DFAA)」も選定します。

東京ミッドタウン・オーディエンス賞

<アートコンペ>、<デザインコンペ>で受賞した作品は、「Tokyo Midtown DESIGN TOUCH 2012」初日の10月26日(金)～11月25日(日)までプラザ B1F メトロアベニュー展示スペースにて展示スペースにて展示します。また11月4日(日)までは、同会場で来街者の一般人気投票を実施し、「オーディエンス賞」を決定します。

投票された方の中から抽選で5名様に、今秋商品化されたデザインコンペ 2011 グランプリ作品『縁起のいい貯金豚』(きんとん)をプレゼントいたします。

投票期間 : 10月26日(金)～11月4日(日)

投票場所 : プラザ B1F メトロアベニュー展示スペース



▲縁起のいい貯金豚

(左 きんとん 右 きんとん)

※アートコンペ、デザインコンペの各受賞作品画像は、以下の URL よりダウンロードいただけます。

http://www.tokyo-midtown.com/press/index_press.html

<デザインコンペ>過去受賞作品の展示

「Tokyo Midtown Award 2012」の受賞作品が展示されるプラザ B1F メトロアベニュー展示スペースに、「Tokyo Midtown Award」開催5周年を記念して、過去の「Tokyo Midtown Award」<デザインコンペ>で各賞を受賞した全37作品を一挙に公開します。最新の受賞作品と併せてお楽しみください。



▲展示イメージ

展示期間 : 10月26日(金)～11月25日(日)

展示場所 : プラザ B1F メトロアベニュー

Tokyo Midtown Award 2012 受賞作品

アートコンペテーマ:「都市」

■グランプリ

受賞作 : 『「中に入れてくれ」、と屋外は言った。』
 受賞者 : 太田 遼(おおた はるか)
 略 歴 : 2010年 武蔵野美術大学大学院 修了

<作家コメント>

屋外は思いました。自分だって中に入りたい。
 そこで、思い切って中に入ってみました。
 やっとのことで中に入った、その様子を見た通りがかりの人が言いました。
 「こんなところに屋外がある」
 屋外はやっぱり屋外なのです。



■準グランプリ

受賞作 : 『風景「都市と生きる」』
 受賞者 : 宮本 宗(みやもと ひろむ)
 略 歴 : 2012年 愛知県立芸術大学大学院 修了

<作家コメント>

都市の独特の空気のなかで感じる違和感は、自分自身がその膨大すぎるエネルギーの中に飛び込んだときの圧迫感であるように感じる。都市にはエネルギーという目に見えない力がいたるところに及んでおり、私達はそれらが秘めるリスクを無意識に背負いながら日々を生きている。そんな私達の生き方はどこか滑稽であるように思う。



■入選

受賞作 : 『Beautiful midnight』
 受賞者 : 大村 雪乃(おおむら ゆきの)
 略 歴 : 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 在籍

<作家コメント>

この夜景は文房具シールだけで作られています。モチーフとなった景色は東京ミッドタウンに隣接するホテル、ザ・リッツ・カールトン東京のある一室からの眺望です。
 灯り一つひとつを安価な素材であるシールにおきかえ大量に用いて、都市の灯りを表現することで、夜景の美しさと金銭価値のギャップ、また大量消費社会の違和感を表現し、そして六本木を訪れる多くの方に節電や環境について考えるきっかけにしたいと思います。



■入選

受賞作：『一戸建てマンション』

受賞者：角 文平(かど ぶんぺい)

略 歴：2002年 武蔵野美術大学造形学部
工芸工業デザイン学科金工専攻 卒業



<作家コメント>

本来、何者にも侵略されることのないプライベートな空間であるべき人間の住居は、人口が過密化している現代都市の中において互いにテリトリーを切り詰め、極限まで隣接しあわなければいけない状況にある。不快なまでの密接な距離感、互いにバランスをとるためにあえて干渉し合わず、希薄な人間関係を生み出しているように思う。一定の距離を保つためにグリッドに固定された家々は、今日も上へ上へと積み重ねられていく。

■入選

受賞作：『To-kyo』

受賞者：下平 千夏(しもだいら ちなつ)

略 歴：2007年 武蔵野美術大学造形学部建築学科 卒業
2010年 東京藝術大学大学院
美術研究科先端芸術表現専攻 修了



<作家コメント>

止まることを知らず、すべてを飲み込み回り続ける都市／東京。

この混沌とした見えない「力」と、それに飲み込まれていく「時間」を表出する。

本展のテーマである「都市」を、自分自身が最も知り得ている「東京」と捉え、体験の中から“To-kyo”という名の自我を持つモンスターを想定し、本作品を構想した。モンスターは時間を食し、力を産み出す。我々はそのモンスターを構成する細胞核であり、この作品は、モンスターの力そのものを表現している。

制作協力:アイダエンジニアリング株式会社 伊藤隆夫、内田康幹、渡辺隆男

吉成工業株式会社 吉成隆

■入選

受賞作：『昨日は明日とどれだけ違うのだろうか。』

受賞者：林田 健(はやしだ けん)

略 歴：2002年 名古屋芸術大学美術学部
絵画科洋画コース 卒業



<作家コメント>

過去から現在までの人の痕跡を物質の中に見出し、そこから未来を見つめていきたいと思います。

絵が持つ primitive な力を信じて rebel painting を以って立ち向かいたい。

<アートコンペ審査員総評>



児島やよい（フリーランス・キュレーター／ライター）

全体にレベルアップしていて、頼もしく思いました。コンセプトと、ミッドタウンのこの場所で見せることを一致させ、あるいは拮抗させた作品が、結果的に入選となりました。都市のテーマ、時代と向き合った入選作はいずれも力作で、展覧会としても見応えがあります。立体造型の存在感を再認識しましたが、コンセプト、技法ともに対照的な2点の平面作品が空間にどんな作用を及ぼすか、楽しみです。グランプリ作品は見事の一言です。



清水敏男（東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授）

ショーケースから通路に場所を移したことで作家の自由度が増し、作品がより良くなった。つまり公共空間に直接コミットすることが可能となり、表現の幅と奥行きが広がった。それは単に眺めるだけの作品ではなく、作品と都市が空間を共有する作品となって現れ、作品と観客の距離が飛躍的に縮まった。どの作品も応募案よりも期待を超える迫力を持つものとなった。賞をとった作品は特にそうした点が評価されたものである。各作家の今後に期待したい。

Photo by Herbie Yamaguchi



土屋公雄（彫刻家／愛知県立芸術大学大学院教授）

展示空間がショーケースからアベニューに変更され、出品作品もよりダイナミックな立体表現が目立ち始めてきた。今年も「都市」をテーマに、6名の若手作家による力作が最終選考へエントリーされた。表現は、絵画からインスタレーション・彫刻・キネティックアートと幅広く、それぞれの視点からの都市観は、見応え十分な作品がラインナップされた。特に太田遼の空間造形は、知的に「場」を取り込んだ作品であり、宮本宗の彫刻は、アートの必然とするメッセージ性を明快に表現していた。今年もメトロアベニューを歩きかう大勢のギャラリーに、アートの魅力を十分感じていただけることであろう。



中山ダイスケ（アーティスト／東北芸術工科大学教授）

サイズの制限はあるものの、昨年から地下通路上に解放された展示空間に対して、きちんと強さで勝負できる経験値の高い作家さんが多かったため、大変わくわくする最終審査でした。アート作品がギャラリーから街に飛び出す際に必ず立ち上がるジレンマなのですが、六本木の地下に美しいオブジェを展示するのか、そこに新しい気づきをもたらすのか？考えさせられたのはそこでした。これまでミッドタウンでは弱いとされていた平面作品でも展開の可能性があることが知れたこともよかったです。

Photo by Miura Haruko

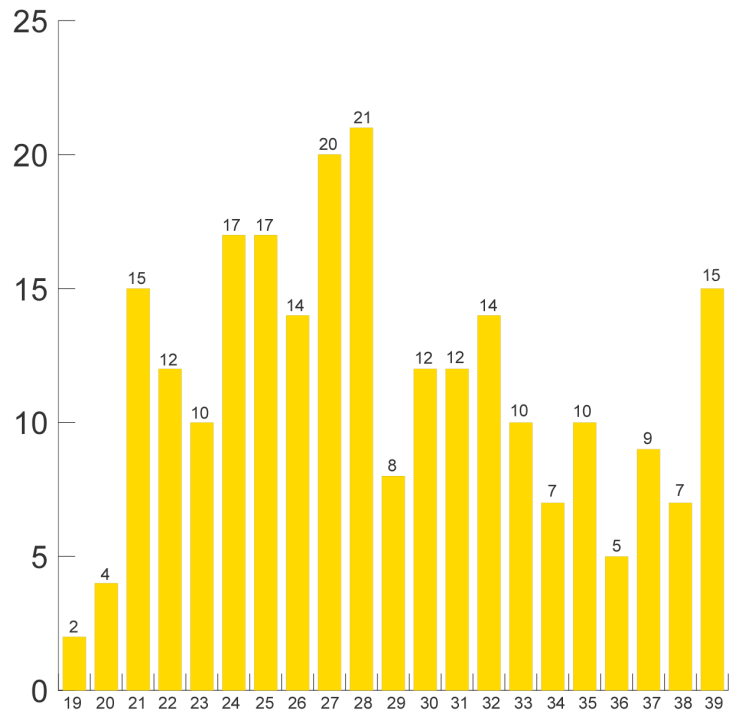
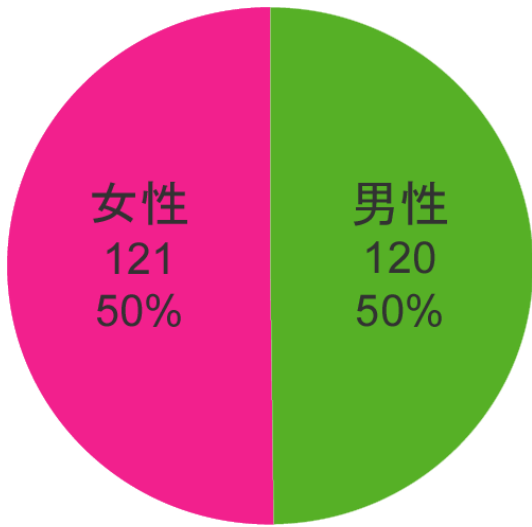


八谷和彦（メディア・アーティスト／東京藝術大学准教授）

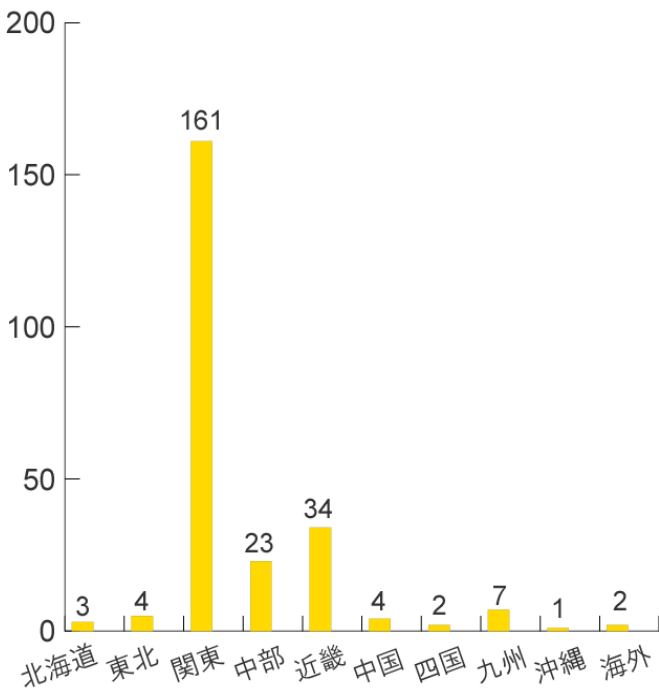
今回から6作品を会場に展示することになったのだが（昨年までは4作品）、点数が増えたこともさることながら、作品の内容的にも粒ぞろいで、過去最高レベルの展示が今年実現できたと思う。特に大型の作品の設置は大変だったと思うが、実現させてくれた作家の皆さんおよび運営のスタッフの尽力に感謝したい。ありがとうございました。

Photo by 米倉裕貴

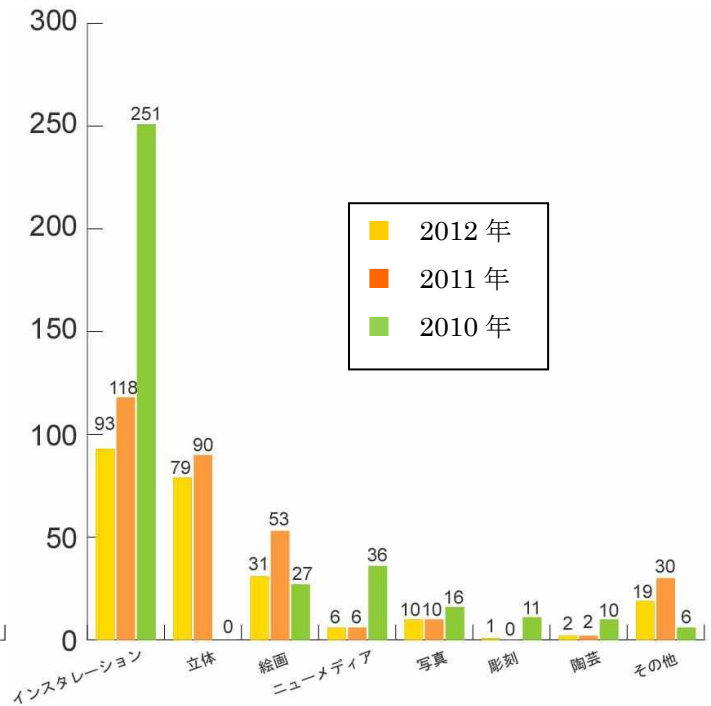
<アートコンペ 応募者データ>



▲応募者年齢分布



▲地域別応募者数



▲分野別応募者数

※2010年は展示場所がプラザB1Fガラスケース

■応募者数…241名(組)

■傾向…様々なジャンルの応募作品に対応可能なように、立体作品向け、平面作品向けの二カ所の展示場所を設けていますが、今年の応募作品には、インスタレーション・立体分野の応募が最も多くなっています。

■グランプリ

受賞作：『おまもりカイロ』
受賞者：市田 啓幸(いちだ たかゆき)
略歴：京都府出身
武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科 在籍



<作品コンセプト>

受験シーズンの学生に贈る、携帯用カイロ。試験当日は緊張で胸がいっぱい。冬の寒さとも勝負しなければいけません。そんな受験生の不安をちょっとやわらげるアイテムです。努力を積み重ねて来た人なら、少しでも気持ちを落ち着かせる事が出来るかも。

■準グランプリ

受賞作：『とんでいけ ばんそうこう』
受賞者：太田 耕介(おおた こうすけ)、櫻井 一輝(さくらい かずき)、池ヶ谷 貴徳(いけがや たかのり)
略歴：太田 耕介・兵庫県出身
千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 在籍
櫻井 一輝・千葉県出身
武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科 在籍
池ヶ谷 貴徳・静岡県出身
2011年 千葉大学工学部デザイン工学科卒業



<作品コンセプト>

「痛い痛い飛んでいけー」という言葉とともに貼ってあげる、子ども用のばんそうこうです。飛行機や鳥など、「飛ぶもの」をモチーフにかたち作りました。親の優しさはこのばんそうこうがあれば、ケガの痛みはどこかへ飛んでいってしまうでしょう。

■優秀賞

受賞作：『桧節』
受賞者：小高 浩平(おだか こうへい)
略歴：埼玉県出身
1999年 武蔵野美術大学 卒業
広告代理店、加治園芸センター店長を経て、
現在、空間デザインからプロダクトデザインまで
幅広く手がける。



<作品コンセプト>

日々の暮らしの中で、木の香りを嗅ぎたくなる瞬間が多々あります。懐かしく、あたたかく、心安らぐあの香り。桧節は、誰でも気軽に木の香りをつくることのできる道具です。その名の通り、桧の節部分の残材を有効活用しています。鯉節を削るように、シャカシャカと桧節を削ってみてください。真新しい桧の芳香と、木を削るという行為そのものが、古き良き日本の記憶とともに、安らかな時間を運んでくれます。

<審査員特別賞>

■小山薫堂賞

受賞作：『おふくろのだしぶくろ』

受賞者：小林 明日香(こばやし あすか)、岡本 大祐(おかもと だいすけ)
 簗島さとみ(みのしま さとみ)

略 歴：小林 明日香・東京都出身
 岡本 大祐・東京都出身
 簗島さとみ・神奈川県出身

3名ともに、2012年武蔵野美術大学基礎デザイン学科 卒業

<作品コンセプト>

“おふくろのだしぶくろ”は、中に合わせだしの具が入った単身世帯向けのだしぶくろ。食事を外食やコンビニで済ます単身の人が多い都心において、家庭の味がもたらす安心感は大きい。しっかりだしをとった料理は、母の手料理を思い起こさせる。おふくろを彷彿させる割烹着型のだしぶくろは、単身世帯の食卓に、安心を与える事が出来るかもしれないと考えた。調理中は割烹着がゆらぎ、人の気持ちを和らげさせるだろう。



■佐藤 卓賞

受賞作：『打虫刀』

受賞者：三田地 博史(みたち ひろし)、小山田 拓司(おやまだ たくじ)

略 歴：三田地 博史・茨城県出身
 小山田 拓司・宮城県出身

2名ともに、京都工芸繊維大学工芸科学部

造形工学域造形工学課程意匠コース 在籍

<作品コンセプト>

都市生活とは切っても切れない存在であるゴキブリ。その容姿は見る者に恐怖を与え、退治するにはかなりの勇気がいるものです。そこで、いつもの武器に一工夫。持つだけであなたの中の侍が目覚め、自信と勇気がわいてきます。内蔵磁石を使って冷蔵庫などに備えておけば、突然の出現にも安心。不安が伴う虫撃退も、楽しめるイベントになります。



■柴田文江賞

受賞作：『心安寺石庭』

受賞者：齊藤 智法(さいとう とものり)、澤田 翔平(さわだ しょうへい)、
 稲葉 基大(いなば もとひろ)、末廣 豪(すえひろ たけし)、中津 祐一(なかつ ゆういち)

略 歴：齊藤 智法(さいとう とものり)神奈川県出身

2009年武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科 卒業

澤田 翔平(さわだ しょうへい)神奈川県出身

2009年武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科 卒業

稲葉 基大(いなば もとひろ)東京都出身

1992年東京都立園芸高等学校食品化学科 卒業

末廣 豪(すえひろ たけし)愛媛県出身

2001年大阪芸術大学映像学科 卒業

中津祐一(なかつ ゆういち)三重県出身

2006年名古屋学芸大学 メディア造形学部 卒業

<作品コンセプト>

気付くと、現代の都会生活では、ゆっくり庭を眺めることが「贅沢な時間」になっていました。そんな時代に、「庭を楽しむ」×「和菓子を食べる」ことで、新しい「安心な時間」を提案します。石庭の岩石を模した黒胡麻の落雁と、季節ごとにモチーフが変わる落雁が一つ。それらを砂糖の玉砂利の上に、自由に配置する。いつものお茶の時間に、自分だけの石庭を楽しむ贅沢を。この庭が、忙しい現代人の心のセラピーになると嬉しいです。



■原 研哉賞

受賞作：『月見灯』

受賞者：川田 敏之(かわだ としゆき)、斎藤 大輝(さいとう だいき)

略 歴：川田 敏之・群馬県出身

2011 年桑沢デザイン研究所ビジュアルデザインコース卒業

斎藤 大輝・愛知県出身

2012 年桑沢デザイン研究所プロダクトデザインコース卒業



<作品コンセプト>

竹の形は懐中電灯そのものです。月見灯は本体を上下に振ることで蓄電を行うため、電池を気にせず半永久的に点灯します。また光源を上に向けることで間接照明や常夜灯としての機能を併せもち、その灯りは天井に丸い月を映し出します。竹と月、古くから人の暮らしを支え、ときには道具として、ときには精神的な安らぎの存在としてあり続けてきました。月見灯、それはこれからの暮らしに安心を与える新しい照明の形です。

■水野 学賞

受賞作：『Handy Soap』

受賞者：森山 隆史(もりやま たかし)、篠崎 健吾(しのざき けんご)

田島 大成(たじま たいせい)

略 歴：森山 隆史・岡山県出身

篠崎 健吾・栃木県出身

田島 大成・富山県出身

3名ともに、多摩美術大学造形表現学部デザイン学科 在籍



<作品コンセプト>

都心のライフスタイルに合わせた新しい石鹸の提案です。HandySoap は使い切りの小さな石鹸です。薬のような清潔感のあるパッケージに入っていて、手軽に持ち運ぶことができます。必要な時にサッと使え、非常時には分け合える事もでき、小さな安心を持ち運ぶ事ができます。

<デザインコンペ審査員総評>



Photo by Hiromi Shinada

小山薫堂(放送作家 / 脚本家 / N35inc・(株)オレンジ・アンド・パートナーズ代表 / 東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科長)

実は、今回はこれまでで最もワクワクした気持ちで審査に参加させていただきました。というのも、「安心」というテーマに例年以上の面白さを感じていたためです。テーマの解釈の仕方、デザインの幅が相当広がるだろうと期待していました。が・・・それが逆に審査の閾値を高めてしまったのかもしれませんが。ずば抜けて面白い作品が例年よりも少ないように感じました。優等生の集まりで、目立ったはみ出し者がいない・・・そんな印象の年だったように思います。

もしかするとそれは審査する側にも責任があるのかもしれませんが。回を重ねるごとにだんだん欲が出てきて「商品化して売れそうなものを」という想いが強まっていることは事実。デザインコンペ開催の意味をもう一度考え直してみたい、と気づかされた審査でした。



佐藤 卓(グラフィックデザイナー / 佐藤卓デザイン事務所 代表取締役)

Tokyo Midtown Award の審査では、毎年面白いものに出会える。今年はテーマがテーマだけに、祈るような気持ちのものが多かった。そして審査中にも、デザインが「祈り」のような方向だけに向いてしまうのは、いかななものかという意見も出て、確かにその通りだと思い、実社会に対して正面から向き合っているものを積極的に選ぶとした。今年もそれぞれ、なかなか面白い作品が受賞したのではないかと思う。そして何より今年のグランプリは、商品化したら売れそうである。



Photo by Seiji Tonomura

柴田文江(インダストリアルデザイナー / Design Studio S 代表)

今年のテーマ「安心」に対して、エントリーされたほとんどの作品は、「安心とは自分自身のこころの内側にある」ということを表現したモノだったように感じた。自分を応援するお守り的なモノや、リラックスを促しこころを癒すもの、それらにデザインから届けられる優しさと思いやりが満載されたアイデアが並んだ。モノが人のこころに何をもちたしてくるのか、これは私自身も探し続けていることだが、デザインが人らしく生きるための「知恵」だと再認識することができるいくつかの作品に出会えて、清々しい気分になった。



原 研哉(グラフィックデザイナー / 武蔵野美術大学教授 / 日本デザインセンター代表)

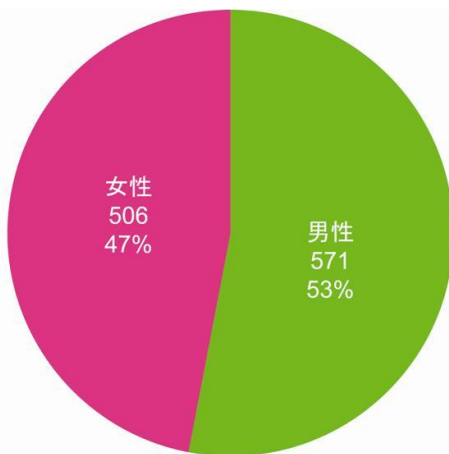
このコンペ独特の雰囲気が出来上ってきたのを感じる。大きなコンセプトよりも小さな幸福をつかんでいく視点やアプローチが、説得力を持つ。経済が順調に動いている時には美しく、目を奪うスタイリングが力を持つが、今日の日本のような状況では、小さくてもリアルな幸福を実現できる発想にひきつけられる。それが最もはっきりとあぶり出されてくるのが、この Tokyo Midtown Award である。今年は「安心」というテーマであったが、「お守り」のようなやや神仏の力に寄り添おうという傾向が強く出ていたように感じた。デザインは神仏の力にはかなわない。そして、それでいいと思うのである。



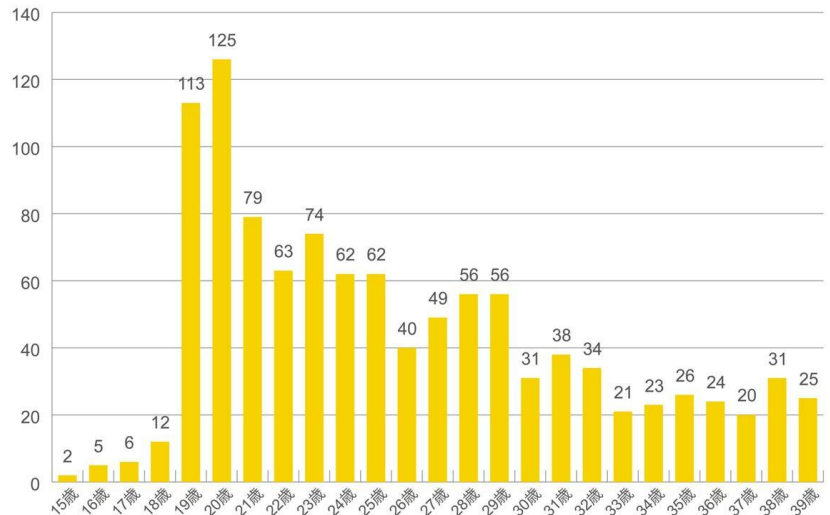
Photo by Eiki Mori

水野 学(アートディレクター / クリエイティブディレクター / good design company 代表)
 デザインとは何か？私の頭には、漬物石のようにいつもこの言葉が重く置かれている。なぜなら、成熟した社会に於けるデザインとは、デザイナーの想像以上に重要な行為であると思っているからである。世界の人々は「武力による戦い」を嫌い、世界平和を願うようになった。しかし、「戦争」は「競争」という言葉に変わって世界中を支配している。(無論、戦争と競争では全く意味や行為は異なり、平和的な解決法として考える事ができる。)そこで重要になっているのが、様々な「競争力」である。これは、自己が他者と交流し、利益を生み出そうとすると、必ずついて回るものだ。現代社会に於いて競争力を強化する為に最も注目されているもののひとつ。それがデザインであると考えている。だからこそ、デザインは「ただ面白いもの」でも「ただカッコいいもの」でも、ましてや「ただ変わっているもの」でもなく、「良いものをつくること」をデザインとみんなが呼ぶようになる事を願う。

<デザインコンペ応募者データ>



▲応募者男女比



▲応募者年齢分布

■応募者数…1,077名(組)

■傾向…今年はテーマが『安心』ということもあり、防犯・防災を意識した作品が数多く見られました。内容は、アプリや空間を含めて、日常の身の回りにあるもの全てとってよい広がりがあり、分野は多岐に渡っています。提案が集中した分野には「照明」「食料品」「食器・台所用品」「絆創膏・衛生用品」「鍵・防犯」「アロマ・ロウソク」「クッション・ブランケット」「手紙」などがあります。また「手紙」に代表されるような、日常の気持ちを伝えたり、緊急時の連絡・情報発信のためのツールが分野を問わず多く見られました。「コミュニケーション」と「安心」が表裏一体であることが、これらの提案から感じられます。